

【授業科目名】国語2 Japanese2

【学年・学科】2年 総合工学システム学科

【授業期間】通年

【授業形態】講義

【担当教員】井上 千鶴子

【授業概要】

【単位数】3単位 必履修

【達成目標】A-2

【分野】人文・社会系（一般）

多様な文章を読解する能力を身につける。自分の意見を論理的に組み立てながら口頭・記述で表現する能力を身につける。古文・漢文の原文に触れることを通して、日本・中国の歴史・文化・思想・感性の特質を理解する。

【授業の進め方】

教科書を使用し、現代文・古典の読解を行う。副教材を使用し、聞く力、話す力の基本を習得する。口頭発表やレポートで、論理的な思考と表現の実践を行う。漢字学習は自主学習を基本とし、副教材の問題集を使用する。

【科目の達成目標】

1. 多様な文章を適切に読解できる。
2. 論理的に思考し、それを記述および口頭で適切に表現できる。
3. 古文を原文で読み、日本語の歴史的文化的背景の一端を理解する。
4. 漢文の訓読・書き下しができ、中国の歴史的文化的背景の一端を理解する。
5. 常用漢字程度の言葉の読み書き能力を身につける。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	2	授業の概要、進め方と受け方、目標、評価方法などの説明。
現代文	22	評論・随筆などの要点を理解し、理解したことをまとめて表現する。
古文	14	古文の読解とその歴史・文化的背景を学ぶ。
表現	6	自分の考察を論理的に記述表現する。
前期中間試験	2	試験の実施と解説。
現代文	22	評論・小説などの要点を理解し、理解したことをまとめて表現する。
漢文	14	唐詩や漢文の読解とその歴史・文化的背景を学ぶ。
表現	6	聞く・話すの基礎を習得する。
後期中間試験	2	試験の実施と解説。

【授業時間外の学習】

漢字の学習は、問題集を用いて計画的に行うこと。
口頭発表の課題には準備を充分に行うこと。

【履修上の注意点】

【成績評価の方法】

1. 試験60%程度（主として授業の目標1、3、4）、小テスト・提出物・口頭発表40%程度（主として授業の目標2、5）を総合して評価する。
2. 100点法で評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】国語1、国語3、現代社会、特別研究

【教科書等】『高等学現代文B』東郷克美他（第一学習社）、『新訂 国語総合 古典編』（第一学習社）

【参考書】『新訂総合国語便覧』（第一学習社）、『精選速修常用漢字』（文英堂）、『話す・聞くの実践トレーニング』（日本語学研究所）、国語辞典、古語辞典、漢和辞典

【授業科目名】 現代社会 Modern Society

【学年・学科】 2年 総合工学システム学科

【授業期間】 通年

【授業形態】 講義

【担当教員】 伏見裕子、小川清次

【授業概要】

多様な考え方、生き方、および社会のあり方や仕組みを知ることにより、現代社会の諸問題を複数の視点から検討し、自らの考えをまとめる。
それとともに、これからの社会づくりおよび自らの人生について主体的に考察する力の基礎を養う。

【単位数】 2単位 必履修

【達成目標】 A-1

【分野】 人文・社会系 (一般)

【授業の進め方】

教科書を中心に講義形式で授業を進めるが、学習内容に意見があれば積極的に発表して学生間で討論しながら学ぶことを歓迎する。

【科目の達成目標】

1. 現代社会の諸問題を多角的に理解する
2. 国内外の政治的・経済的諸制度を理解し、それらの成立経緯や問題点を理解する
3. 未来の社会の担い手に求められる考え方や行動の仕方について主体的に考察し、自らの考えを表現できる

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
私たちの生きる社会	6	ガイダンス 現代社会の諸問題と地球環境 資源・エネルギー、公害
人間として生きること	10	生命倫理 多様化する家族 自己の形成 男女共同参画とジェンダー 哲学、宗教、科学と人間 人間の尊厳 情報リテラシー
法と政治	18	民主政治の成立 基本的人権 世界の政治体制 日本国憲法の3つの原理・基本的人権の保障・平和主義 日本の政治機構 (立法権, 行政権, 司法権 地方自治) 日本の政治 (選挙制度 政党と利益集団 世論と政治参加) 法の支配 市民生活と法 人権保障
経済, 国際社会	22	市場経済 現代の企業 経済成長 金融制度 日本の経済成長 バブル経済とその後 日本経済の現在 自立した消費者 労働をめぐる権利と問題 社会保障 貿易と国際分業 国際収支 グローバル化 国際社会と国際紛争 国際連合 多様化する世界経済 人口・資源・食糧問題 紛争
共生社会を目指して	4	労働環境, エネルギー問題, 世代間格差等について考える

【授業時間外の学習】

新聞等のニュースに日々接する

【履修上の注意点】

板書および授業内容を、ノートや配付プリント等に筆記する

【成績評価の方法】

1. 試験70%, 学習態度およびレポート30%
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする

【関連科目】 日本史, 世界史

【教科書等】 渡辺雅男ほか著『改訂版高等学校現代社会』数研出版、第一学習社編集部編『最新現代社会資料集

【参考書】 (未定)

【授業科目名】	微分積分a Differential and Integral Calculus a	【単位数】	2単位 必履修	【達成目標】	B-1
【学年・学科】	2年 総合工学システム学科	【分野】	理数系 (一般)		
【授業期間】	前期				
【授業形態】	講義				
【担当教員】	松野 高典, 檜崎 亮				
【授業概要】	数列とその極限および整関数の微分について学ぶ。				

【授業の進め方】

講義は、既習事項との接続に十分配慮しながら教科書ならびに問題集により行う。教科書の流れにしたがって展開し、基礎・基本の確実な定着に重点を置く。授業中に随時演習も行う。

【科目の達成目標】

1. 数列と一変数関数の極限および導関数の概念を理解する。
2. 整関数の微分法について具体的に学習する。
3. 他の教科で必要となる数学的手法や計算技術を修得する。
4. 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用できるようにする。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
数列とその和	12	数列、等差数列、等比数列、いろいろな数列の和
無限数列	16	数列の極限、級数とその和、数列の漸化式、数学的帰納法
関数の極限	8	関数の収束と発散、関数の連続性
微分法	12	平均変化率と微分係数、導関数、合成関数と関数の積の導関数
微分法の応用 I	10	関数のグラフの接線、導関数の符号と関数の増減、第2次導関数の符号と関数の凹凸
中間試験	2	前期中間試験

【授業時間外の学習】

教科書の例題・問を復習するとともに、問題集の問題も解いておくこと。

【履修上の注意点】

授業中に小テストを行う。
提出課題は必ず提出すること。

【成績評価の方法】

1. 試験(70%)および小テスト・演習課題・レポート(20%)、出席状況・受講態度(10%)などを総合して評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 基礎数学a、基礎数学b、微分積分b、解析a、解析b、線形代数・微分方程式

【教科書等】 微分積分1、微分積分1 問題集 (森北出版)

【参考書】

【授業科目名】微分積分b Differential and Integral Calculus b

【学年・学科】2年 総合工学システム学科

【授業期間】後期

【単位数】2単位 必履修

【達成目標】B-1

【授業形態】講義

【分野】理数系 (一般)

【担当教員】松野 高典, 檜崎 亮

【授業概要】

分数関数・無理関数・対数関数・指数関数・三角関数の微分および整関数・分数関数・無理関数・対数関数・指数関数・三角関数の積分について学ぶ。

【授業の進め方】

講義は、既習事項との接続に十分配慮しながら教科書ならびに問題集により行う。教科書の流れにしたがって展開し、基礎・基本の確実な定着に重点を置く。授業中に随時演習も行う。

【科目の達成目標】

1. 一変数関数における微分法積分法の内容を理解する。
2. 分数関数・無理関数・対数関数・指数関数・三角関数の微分法について具体的に学習する。
3. 整関数・分数関数・無理関数・対数関数・指数関数・三角関数の積分法について具体的に学習する。
4. 他の教科で必要となる数学的手法や計算技術を修得する。
5. 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用できるようにする。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
いろいろな関数の微分法	14	分数関数、無理関数、対数関数、指数関数、三角関数および逆三角関数の導関数
微分法の応用 II	12	不定形の極限值、関数の増減と変曲点、関数の最大値・最小値、微分と近似、いろいろな変化率
定積分	12	定積分、定積分の計算と面積
不定積分	10	不定積分、不定積分の置換積分法、不定積分の部分積分法
定積分	8	定積分の置換積分法、定積分の部分積分法
定積分の応用	2	面積
中間試験	2	後期中間試験

【授業時間外の学習】

教科書の例題・問を復習するとともに、問題集の問題も解いておくこと。

【履修上の注意点】

授業中に小テストを行う。
提出課題は必ず提出すること。

【成績評価の方法】

1. 試験(70%)および小テスト・演習課題・レポート(20%)、出席状況・受講態度(10%)などを総合して評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】基礎数学a、基礎数学b、微分積分a、解析a、解析b、線形代数・微分方程式

【教科書等】微分積分1、微分積分1 問題集 (森北出版)

【参考書】

【授業科目名】ベクトル・行列 Vectors and Matrices

【学年・学科】2年 総合工学システム学科

【授業期間】通年

【単位数】2単位 必履修

【達成目標】B-1

【授業形態】講義

【分野】理数系 (一般)

【担当教員】稗田 吉成, 島野 達雄

【授業概要】

平面のベクトルと図形および空間のベクトルと図形の概念を学ぶ。
行列、行列式について学ぶ。

【授業の進め方】

講義は、既習事項との接続に十分配慮しながら教科書の内容に沿って展開し、基礎、基本の確実な定着に重点を置く。授業中に随時演習も行う。

【科目の達成目標】

1. 平面のベクトルと図形および空間のベクトルと図形の概念を理解する。
2. 線形代数としての行列、行列式の概念を理解する。
3. 他の教科で必要となる数学的手法や計算技術を修得する。
4. 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを活用できるようにする。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ベクトル	12	ベクトルとその演算、点の位置ベクトル、座標と距離 ベクトルの成分表示と大きさ、方向ベクトルと直線
ベクトルと図形	12	ベクトルの内積、法線ベクトルと直線または平面の方程式 円または球面の方程式
行列	12	行列、行列の和・差、実数倍、行列の積、逆行列、連立2元1次方程式
行列式	18	3次正方行列の行列式、n次正方行列の行列式、行列式の性質 行列の積の行列式、行列式の展開、行列式の応用
基本変形とその応用(一部)	4	基本変形による連立1次方程式の解法、基本変形による逆行列の計算
中間試験	2	前期中間試験、後期中間試験

【授業時間外の学習】

教科書の例題・問を復習するとともに、問題集の問題も解いておくこと。

【履修上の注意点】

授業中に小テストを行う。
提出課題は必ず提出すること。

【成績評価の方法】

1. 試験(70%)および小テスト・演習課題・レポート、出席状況・受講態度(30%)などを総合して評価する。
2. 100点法で評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】基礎数学a、基礎数学b、微分積分a、微分積分b、解析a、解析b、線形代数・微分方程式

【教科書等】線形代数、線形代数問題集 高専の数学教材研究会 [編] (森北出版)

【参考書】

【授業科目名】 物理2 Physics 2

【学年・学科】 2年 総合工学システム学科

【授業期間】 通年

【授業形態】 講義

【担当教員】 山下良樹

【単位数】 3単位 必履修

【達成目標】 B-1

【分野】 理数系 (一般)

【授業概要】

1年次の物理1の引き続き、力学の基礎として、力学的エネルギーについて学習する。運動量と力積を用いて、衝突現象などを学習する。振動現象、円運動において、はたらく力、周期について学習する。エネルギーの一形態である熱エネルギーと物体の温度の関係について学ぶ。電磁気学の基礎（静電場、電流、磁場、電磁誘導）について学習する。

【授業の進め方】

教科書、プリント、板書によって授業を進めることを主とするが、適宜ビデオ教材、スライドを提示し、演示実験、演示実験も行う。後期の電磁気学分野の電流に関する項目において、キルヒホッフの法則を用いた回路の計算等は「電気電子基礎」において学ぶので、この授業では概要の説明のみ行う。

【科目の達成目標】

1. 運動の3法則、および力学的エネルギーについて理解する。
2. 熱エネルギーと温度、物体の比熱について理解する。
3. 運動量、力積について学び、衝突現象などを理解する。
4. 円運動、単振動する物体にはたらく力、およびそれを特徴付ける量（周期、振動数等）について理解する。
5. 電場や磁場といった概念、電磁誘導の法則の理解し、基本的な問題が解ける。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	1	シラバス説明
仕事とエネルギー	6	仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギー保存の法則
温度と熱	5	温度と熱、物質の3形態、比熱、熱量保存の法則、物体の熱膨張
	2	比熱の測定実験
運動のベクトル表示	2	位置、速度、加速度のベクトル表示、速度の合成と分解、相対速度
平面運動	5	平面内の運動方程式、水平投射、斜方投射
<< 前期中間試験 >>	2	
剛体にはたらく力	5	力のモーメント、剛体にはたらく力のつりあい、合力、重心
力積と運動量	4	力積と運動量、運動量保存の法則、反発係数、衝突の問題
等速円運動	4	周期、角速度、向心加速度、向心力
慣性力	2	慣性力、遠心力
単振動	4	単振動、ばね振り子、単振り子
万有引力による運動	3	万有引力、惑星・衛星の運動
<<前期末試験>>		
静電場	6	静電気、クーロン力、静電場、電気力線、ガウスの法則
電位	6	電位、電位差、等電位線、静電誘導
コンデンサー	4	コンデンサーの原理、電気容量、静電エネルギー
電流	5	電流、抵抗、ジュール熱、キルヒホッフの法則、非線形抵抗、半導体
<<後期中間試験>>	2	
磁場	4	磁気力、磁場、磁力線、磁化
電流と磁場	5	電流の作る磁場、電流が磁場からける力、ローレンツ力、ホール効果
電磁誘導の法則	5	レンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則、渦電流
交流、自己誘導、相互誘導	5	交流の発生、自己誘導、相互誘導
交流回路	3	リアクタンス、インピーダンス、共振、電気振動

<<学年末試験>>

【授業時間外の学習】

事前学習：教科書を読んでおくこと。

事後学習：問題集で指定された範囲、および演習問題プリントを学習すること。

【履修上の注意点】

関数電卓を用いるので用意しておくこと。携帯電話等の通信機器の使用は認めない。試験は途中退室不可とする。出席状況も評価対象となるので、正当な理由があつて遅刻、欠課をした場合は申し出ること。

【成績評価の方法】

1. 試験成績を70%、授業中の演習のとりくみや提出物の評価を30%の割合で評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 物理1

【教科書等】 改訂版物理基礎、総合物理1, 総合物理2 國友正和 他著 (数研出版)

【参考書】 リードα 物理基礎・物理 数研出版編集部 編 (数研出版)

フォトサイエンス物理図録 数研出版編集部 (数研出版)

【授業科目名】 化学2 Chemistry 2
 【学年・学科】 2年 総合工学システム学科
 【授業期間】 通年
 【授業形態】 講義
 【担当教員】 北野 健一, 岡本 拓也
 【授業概要】

【単位数】 2単位 必履修
 【分野】 理数系 (一般)

【達成目標】 B-1

無機物質と有機化合物の基礎を学ぶ。

【授業の進め方】

講義は教科書とプリントを用いて行い、問題集を用いた演習で理解の定着を図る。また、講義内容に沿った実験を行って理解を深めるとともに、探究活動を行わせて化学的に探究する能力と態度を身につけさせる。

【科目の達成目標】

1. 化学平衡の法則を理解する。
2. 無機物質に関する基本的な原理と法則を理解する。
3. 有機化合物に関する基本的な原理と法則を理解する。
4. 化学的に探究する能力と態度を身につける。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
化学反応の速さ	2	シラバスの説明、化学反応の速さと濃度・圧力
	2	化学反応の速さと温度、活性化エネルギー、触媒
化学平衡	8	可逆反応と平衡、平衡移動、平衡定数、電離平衡
前期中間試験	1	
非金属元素	2	元素の分類、ハロゲンの単体、ハロゲンの化合物
	2	硫黄の化合物、窒素の化合物
金属元素	2	アルカリ金属とその化合物
	2	2族元素とその化合物
	2	亜鉛・水銀とその化合物、アルミニウムとその化合物
	2	鉄とその化合物
	2	銅とその化合物、銀とその化合物
前期末試験		
有機化合物の特徴と構造	4	特徴と分類、化学式の決定
脂肪族炭化水素	4	アルカン、シクロアルカン、アルケン、アルキン
酸素を含む脂肪族化合物	6	アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル
後期中間試験	1	
酸素を含む脂肪族化合物	2	油脂とセッケン
芳香族化合物	2	芳香族炭化水素、ベンゼンの反応
	2	フェノール類
	2	芳香族カルボン酸
	2	窒素を含む芳香族化合物
後期末試験		
実験	8	

【授業時間外の学習】

【事前学習】 次の時間に習うと予想される範囲の教科書をあらかじめよく読んでおくこと。

【事後学習】 習った範囲について教科書の問いや節末問題、問題集の問いを解いておく。授業中に課題が出された場合は必ず期限までに提出すること。

【履修上の注意点】

実験の時間は白衣と保護めがねを忘れずに持参すること。

【成績評価の方法】

1. 試験を中心にレポートなどの提出物(90%)と、実験や探究活動への取り組む姿勢(10%)などを通して、各達成目標に対する到達度を評価する。
2. 100点法で評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 化学1、総合工学実験実習I、総合工学実験実習II、物質科学

【教科書等】 『高等学校 化学』山内薫ほか(第一学習社)

【参考書】 『セミナー化学基礎+化学』第一学習社編集部(第一学習社)、『改訂版 フォトサイエンス化学図録』数研出版編集部(数研出版)

【授業科目名】 保健・体育 Health and Physical Education

【学年・学科】 2年 総合工学システム学科

【授業期間】 通年

【単位数】 2単位 必履修

【達成目標】 A-3

【授業形態】 実技

【分野】 保健・体育 (一般)

【担当教員】 橋爪 裕, 春名卓司

【授業概要】

1年生と同じく多項目経験型の授業を展開する。その経験を通じて卒業後も行っていける生涯スポーツの基本的実技能力を身につける。また、年間を通じて安全にまた効果的にスポーツ活動に取り組めるよう運動・トレーニング理論を理解する。

【授業の進め方】

実技：シラバスに沿って実技技術習得を行い、達成度の確認を行う。

理論：教科書・参考書を使用し、授業を進める。

【科目の達成目標】

1. 課題解決の為に技術的ポイントを理解し実践できる能力を身につける。
2. 持久的な身体能力を身につける。
3. 運動の学習方法および身体に関わる理論的背景を理解する。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
体力測定	4	(1) 8種目測定 (体育館・グラウンド)
ソフトボール	10	(1) スローイング、キャッチング、バッティング (2) 簡易ゲーム
器械体操	9	(1) 鉄棒運動 (逆上がり、前回り) (2) マット運動 (側転、ロンダート)
水泳	4	(1) クロール (50mタイム計測) (2) 背泳ぎ (25m)
柔道	14	(1) 体さばきの理解と実践 (2) 受身 (横受身、後ろ受身、前回り受身) (3) 投げ技 (送り足払い、大外刈り、体落とし)
サッカー/テニス	9	■ サッカー (1) 基礎技能の実践 (ドリブル、トラッピング、各種キック) (2) 簡易ゲーム
	9	■ テニス (女子対応種目) (1) フォアハンドストローク、サーブ、ボレー (2) ルールの理解、簡易ゲーム
持久走	6	(1) グラウンド15分間走 (2000m以上) (2) 1500m記録測定 (天候による) (3) 20mシャトルラン
保健体育理論	4	(1) 運動への意識 (2) 運動の習熟課程 (3) 運動形式 (4) 身体の可能性

【授業時間外の学習】

■ レポート提出あり (体力測定、夏休み課題、冬休み課題、講義、実技見学)

【履修上の注意点】

■ 実技はネックレス・ピアス等の装飾品をはずし体操着で授業参加すること。

■ 体調不良の場合は必ず自己申告すること。

■ 体育係は、雨天時、集合場所を担当教員に聞き、クラスに集合場所を伝えること。

【成績評価の方法】

1. 100点法により達成目標1~3を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

■ 基礎運動20点 (準備運動・持久走含む) ■ 運動課題50点 ■ レポート30点

2. 基礎運動を実施しない場合は4点を減点、見学した場合は2点を減点とする (見学者: レポート提出必要)。

3. レポートが未提出の場合は総合点数から5点を減点する。

【関連科目】 なし

【教科書等】 改訂増補版保健体育概論 近畿地区高等専門学校体育研究会編 晃洋書房

【参考書】 ステップアップ高校スポーツ 2016 大修館書店

【授業科目名】 英語Ⅱ English II

【学年・学科】 2年 総合工学システム学科

【授業期間】 通年

【授業形態】 講義

【担当教員】 増木 啓二

【授業概要】

リーディングを主とした総合基礎演習（中級）

【単位数】 3単位 必履修

【達成目標】 A-2

【分野】 外国語（一般）

【授業の進め方】

テキストに関連する文法や語句・表現の解説ならびに音読の練習をしながら、読んで理解する活動を中心に進める。「理工系学生のための必修英単語（COCET 2600）」を使った単語テストも行う。

【科目の達成目標】

1. 高校中級レベルの英文を読んで、理解できる。
2. 英文に現れる文法や語句・表現を身に付ける。
3. 英文を正しく音読できる。
4. 基礎的な語彙力を身に付ける。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	1	授業の概要、進め方、目標、評価方法の説明
演習	45	英文を読んで理解する活動（聞く・話す活動も含む）
	25	文法や語句・表現に関する指導
	10	音読の指導
	5	英単語学習
中間試験	2	前期中間試験および後期中間試験
英語運用能力テスト	2	TOEIC Bridge IPテスト

【授業時間外の学習】

英単語学習、テキストの語句調べ・下読みなどの予習、音読練習などの復習、指定された課題を行うこと。

【履修上の注意点】

【成績評価の方法】

1. 試験(63%)、平常成績(27%)、TOEIC Bridge IPテストの成績(10%)で評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 英語表現Ⅱ

【教科書等】 『PRO-VISION English Communication II』、他1冊

【参考書】 『Vision Quest 総合英語』、英和辞典、和英辞典

【授業科目名】 英語表現Ⅱ English Writing

【学年・学科】 2年 総合工学システム学科

【授業期間】 通年

【単位数】 2単位 必履修

【達成目標】 A-2

【授業形態】 講義

【分野】 外国語 (一般)

【担当教員】 金崎 八重, 川村 珠巨, 外国人英語指導員 (NET)

【授業概要】

英文法およびライティング基礎演習

【授業の進め方】

英語表現Ⅰに引き続き、テキストと参考書を使用して基本英文法の解説・問題演習を行うとともに、学んだ知識を使って情報や考えを英語で表現する基礎練習を行う。NETも適宜、指導や添削に参加する。

【科目の達成目標】

1. 基本英文法の理解を深める。
2. 英語の語句や表現、発音等に関する知識を増やす。
3. 情報や考えを英語で表現する基礎力を養う。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
導入	1	授業の概要、進め方、目標、評価方法の説明
演習	20	関係詞、比較、仮定法 (Vision Quest I の続き)
	12	名詞と冠詞、主語を決める、動詞を決める
	12	主語と動詞の呼応、時制の一致、動詞の形を決める
	14	情報や考えを英語で表現する演習
中間試験	1	前期中間試験

【授業時間外の学習】

指示された予習や課題をすること。

【履修上の注意点】

授業に辞書を持参のこと。英和辞典、和英辞典は必須。スマホなどで代用するのは不可とする。

【成績評価の方法】

1. 試験 (70%) および平常成績 (30%) で評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 英語Ⅱ

【教科書等】 『Vision Quest English Expression I & II』

【参考書】 『Vision Quest 総合英語』、和英辞典、英和辞典

【授業科目名】 防災リテラシー Literacy for Disaster risk reduction

【学年・学科】 1、2、3、4年 総合工学システム学科

【授業期間】 【単位数】 1単位 選択

【達成目標】 A-1

【授業形態】 その他

【分野】 人文・社会系 (一般)

【担当教員】 葭谷 安正, 土井 智晴, 岩本 いづみ

【授業概要】

社会生活における様々な場面で、あるいは所属する組織において、減災・防災のリーダーとなるべく、災害を理解し減災・防災に関する知識・意識・技能を習得する。

【授業の進め方】

文献資料やビデオ(DVD)教材等により諸事例の考察を行い、減災・防災に関する知識を習得する。災害が多発する先進国である日本で生きていくために、最低限知っておくべきことを学ぶ。現実の社会での出来事にも関心を持って学習し、将来、防災リーダーとして活躍してもらうことを期待している。

【科目の達成目標】

1. 防災に関する基礎知識を理解する。
2. 災害発生時の対応について理解する。
3. 防災対策や災害直後から復興に向けての対応、インフラ整備やまちづくりについて理解する。
4. 災害のリスクを減らす手法や災害に備えた事業継続計画の作成などについて理解する。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
大震災の後のできごと	2	災害の種類、構造、対応の基本を学ぶ。
震災と住宅	2	災害の後の住まいの移りかわりについて学ぶ。
地震・津波の話	2	地震はなぜ日本に多いのかについて学ぶ。
災害情報	2	災害時の情報、避難行動について学ぶ。
火災	2	火災の性質、建物での火災、コンビナート災害などについて学ぶ。
地盤災害	2	降雨や地震による土砂災害と地盤沈下などについて学ぶ。
災害と法	2	災害に関する法について学ぶ。
ライフラインの被害と復旧	2	電気、水道、下水、鉄道、道路などの大災害での被害について学ぶ。
南海トラフの地震と津波	2	南海トラフの地震について考えられていることについて学ぶ。
台風、豪雨災害などの自然災害	2	台風および豪雨災害、等の発生メカニズムなどについて学ぶ。
エネルギーと地球温暖化対策	2	多様化するエネルギーと災害の関連性について学ぶ。
原子力と災害	2	原子力の基礎と原発事故災害などについて学ぶ。
クロスロードゲーム (概論)	4	災害時、直面するであろう選択をゲームを通じて学ぶ。
防災マップ	2	自宅から避難所までの防災マップを作成する。

【授業時間外の学習】

防災マップの作成、クロスロードゲームの事前準備など、授業の終わりに指示する。

【履修上の注意点】

クロスロードゲームは必ず受講し、防災マップは必ず作成して提出すること

【成績評価の方法】

1. 集中講義や実習に2/3以上の出席者に対して試験を実施する。
2. 試験 (50%)、レポート・授業への取組み姿勢 (50%)を総合評価する。
3. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】

【教科書等】 防災リテラシー 太田, 松野 (森北出版)

【参考書】

【授業科目名】 総合工学実験実習Ⅱ Elementary Practice of Engineering II

【学年・学科】 2年 総合工学システム学科

【授業期間】 通年

【単位数】 4単位 必修得

【達成目標】 C-1

【授業形態】 実験

【分野】 工学基礎

【担当教員】 鯉坂 誠之, 平井 三友, 難波 邦彦, 越智 敏明, 土井 智晴, 須崎 昌己, 野田 達夫, 倉橋 健介, 西星 匡博, 酒井 昌彦, 土田 将司, 安藤 太一

【授業概要】

身の回りの工業製品や環境について設計、デザイン、計測、加工、制御といった「ものづくり」の基礎となる要素技術を身につける。

【授業の進め方】

全2年生を8グループ(20人)に分けて、各コースにおいて特色ある実習を行い、ものづくりの発想法や技術の基礎的知識を身につける。また、実習テーマごとに設けられた実験実習報告書を作成し実習内容の深い理解を得る。

【科目の達成目標】

1. 「ものづくり」の体験的学習を通じて、設計、デザイン、計測、加工、制御技術等の基礎的事項を学ぶ。
2. 体験的学習を通して工学の素養としての技法や方式について学ぶ。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	4	実習の概要と進め方、授業の目標、評価方法の説明、安全教育
文鎮の製作	12	旋盤、フライス盤、ボール盤、手仕上げ
リンク機構	12	機構の説明、リンク機構の組立と動作の計測
マイコン制御	12	e-Gadget-TTを用いたロボット制御
直流回路の実験	4	キルヒホッフの法則、測定値と有効数字の取り扱い 抵抗ブリッジ回路の平衡、電池の内部抵抗測定
ダイオードの電流-電圧特性	4	各種ダイオードの電流-電圧特性の測定
データ処理とグラフへの整理	4	グラフへの整理とそのルール
中和滴定	4	中和滴定の操作により、食酢中の酢酸の濃度を求める
酸化還元滴定	4	オキシドールに含まれる過酸化水素の量を酸化還元滴定により求める
医薬品の合成	4	鎮痛作用があるアセチルサリチル酸からサリチル酸メチルを合成する
アミノ酸の定量	4	分光光度計を用いてアミノ酸を定量する
反応熱	4	サーモクロミズムを実験で確かめ、カイロの基礎原理を理解する
草木染め	4	身近にある天然色素で布を染める
環境デザイン	12	周辺環境を考慮して建造物をデザインし、図面を描く
ストローストラクチュアの強さ	12	ストローを使って骨組み構造物を製作し、その強さを調べる
予備日・補講日	20	

【授業時間外の学習】

1. 実習前は、実習の手引きを確認し必要な事前学習を行い、持ち物を確認すること。
2. 実習後は、実習した内容の理解を深めるため、報告書の作成などを行うこと。

【履修上の注意点】

1. 遅刻、忘れ物をしないこと。
2. 提出物の期限を守ること。
3. 服装は指示されたものを着用し、事故やけがに注意すること。

【成績評価の方法】

1. 各テーマごとに出席状況および実習態度(50%)、実習成果物および実験実習報告書(50%)の100点満点で評価を行う。
2. 各テーマの時間数に応じた加重平均により100点法で評価する。
3. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 総合工学実験実習I、電気電子基礎、化学1、化学2、情報処理I

【教科書等】 各テーマごとに実習テキストを配付、実習の手引き

【参考書】 関連科目の教科書等

【授業科目名】	情報処理 I Information Processing I	【単位数】	1単位 必履修	【達成目標】	B-2
【学年・学科】	2年 総合工学システム学科	【分野】	工学基礎		
【授業期間】	後期				
【授業形態】	講義				
【担当教員】	花川 賢治, 窪田 哲也, 上村恭平, 土田将司				
【授業概要】	C言語を用いてプログラミングの基礎を学び、演習を通して知識の深化を図る。				

【授業の進め方】

基礎的なプログラミングを行う上で最低限知っておく必要のある内容について教科書を用いた講義を行う。講義の後、理解を深めるために演習問題を各自でプログラミングする。

【科目の達成目標】

1. Cプログラムの基本的な書式を理解する。
2. 変数の型と参照・代入を理解し、入出力関数の使用方法を習得する。
3. 基本的な演算子や制御文を理解し、これらを使用したプログラミングを習得する
4. コンパイル時のエラーメッセージから誤りをみつけ修正できる
5. 教科書の演習問題またはそれに類する問題のプログラムを作ることができる

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	1	シラバスの説明、授業の進め方、評価および評点に関する説明
	1	プログラミング環境の説明と練習、プログラムソースのインデントコンパイルと実行
まずは慣れよう	1	表示
	1	変数
	2	読込み
演算と型	2	演算子、式
	2	double型、キャスト
分岐	4	if文、複合文
中間試験	2	試験、答案返却および解説
繰り返し	4	while文、for文
	4	多重ループ
配列	4	1次元配列
	2	多次元配列

【授業時間外の学習】

【事前学習】教科書を前もって目を通しておく

【事後学習】授業で行った範囲の演習問題、課題等について各自でプログラミングして理解を深める

【履修上の注意点】

教科書を見るだけでなく、実際に多くのプログラムを作るなど、各自で理解を深める努力をすること。分からないことは、クラスの担当に関係なく上記担当教員のところに質問に来ること。

【成績評価の方法】

1. 2回の試験で評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】情報、基礎工学演習I、基礎工学演習II

【教科書等】『新・明解C言語入門編』柴田望洋(ソフトバンククリエイティブ)

【参考書】特に指定はしないが、C言語に関する図書全般

【授業科目名】	製図基礎 Fundamental of Drawing	【単位数】	1単位 必履修	【達成目標】	C-1
【学年・学科】	2年 総合工学システム学科	【分野】	工学基礎		
【授業期間】	前期				
【授業形態】	講義				
【担当教員】	越智 敏明, 藤原 順介				
【授業概要】	JIS機械製図法を取り上げ、製図の基本事項を習得する。				

【授業の進め方】

主として教科書を用いて行う。製図作業に時間を多く配分し、演習により理解を深める。

【科目の達成目標】

1. 製図の基本事項である、線・文字の用法、投影法、図示方法、寸法記入法を習得する。
2. 図面を読む力、正確に作成する力を身につける。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
機械製図の基本	2	図面の役割、製図規格について、製図用具の使い方
基礎的な図形のかき方	4	基礎的な作図、直線と円弧のつなぎ方
投影図	4	投影法、投影図の描き方
立体的な図示法	2	等角図とその描き方、キャビネット図、展開図
製作図面の様式	2	製作図、尺度、表題欄、図面番号、部品欄
図形の表し方	2	図の配置、断面図示
特別な図示方法	4	特別な図示法、線・図形の省略
寸法記入法	6	基本的な寸法記入法、寸法記入上の留意事項
公差、面の肌	4	面の肌、寸法公差、はめあい、幾何公差

【授業時間外の学習】

課題の遅れについては、自分で検図し完成させること。

【履修上の注意点】

製図道具を用意しておくこと。

【成績評価の方法】

1. 前期末の定期試験1回(30%)、演習課題の提出状況とその内容(70%)を総合して評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 総合工学実験実習

【教科書等】 機械製図 林 洋次ほか(実教出版)

【参考書】 JISにもとづく機械設計製図便覧 大西 清(理工学社)

【授業科目名】 電気電子基礎 Introduction to Electrical and Electronic

【学年・学科】 2年 総合工学システム学科

【授業期間】 前期

【単位数】 1単位 必履修

【達成目標】 C-1

【授業形態】 講義

【分野】 工学基礎

【担当教員】 重井 宣行, 平田 昌也

【授業概要】

工学技術者にとって必要な電気回路の基本的な現象および法則について学ぶ。

【授業の進め方】

主として教科書ならびに配布プリントにより行う。演習課題を解くことで理解の定着を図る。

【科目の達成目標】

1. オームの法則、キルヒホッフの法則を使った電気回路の計算ができる。
2. ジュールの法則と電力量の関係について理解できる。
3. 電気抵抗(抵抗率と導電率)の基礎を学び、抵抗の概念について理解できる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
科目の概要	1	授業の進め方と目標、評価方法の説明
直流回路の電流と電圧	3	電気回路、電圧計・電流計の接続方法
	6	オームの法則と抵抗の各種接続方法との関係
	2	電池の接続
	4	キルヒホッフの法則
電力と熱エネルギー	2	ジュールの法則と電力量との関係
	4	電気器具の安全利用(許容電流、ヒューズ等)、ゼーベック効果、ペルチエ効果
電気抵抗	4	電気抵抗の性質(抵抗率、温度による変化等)、抵抗器の種類
まとめ	2	総合問題演習
(中間試験)	2	

【授業時間外の学習】

演習問題が確実に解けるように復習しておくこと。

【履修上の注意点】

配布物を綴じておくファイルを用意すること。

【成績評価の方法】

1. 科目の達成目標1~3について、試験と演習課題レポートで評価する。試験に70%、演習課題レポートに30%の重みをつけて評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 総合工学実験実習II、物理2

【教科書等】 『電気基礎1』堀田栄喜ほか監修(実教出版)

【参考書】 『はじめての電気回路』大熊康弘著(技術評論社)

【授業科目名】 環境科学概論 I Introduction to Environmental Science I

【学年・学科】 2年 総合工学システム学科

【授業期間】 半期

【単位数】 1単位 必履修

【達成目標】 C-2

【授業形態】 講義

【分野】 工学基礎

【担当教員】 西田 博一

【授業概要】

工学技術者にとって、地球環境問題と工学専門をつなぐ専門基礎として、大気や水の循環と多様な地球環境に関する基礎を身につけることは重要である。環境の現状と課題について考察し、人間と地球環境とのかかわりについて探究する。

【授業の進め方】

講義は、教科書を中心に必要に応じてプリントを用いて行い、随時演習を行なって基礎・基本の確実な定着を図る。

【科目の達成目標】

1. 太陽系の誕生と地球の進化について理解する。
2. 大気や水の循環と、地球環境の多様性を理解する。
3. 環境の現状と課題について考察し、環境保全の技術について理解する。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス、惑星としての地球	2	シラバスの説明、太陽系の誕生、地球の進化
地球の構造	2	地球の形と大きさ、地球内部の層構造
プレートの運動	2	プレートテクトニクス、プレート運動のしくみとエネルギー
地震と地殻変動	2	地震、変動地形、地震災害
火山	2	火山活動、火成岩、火山災害
大気の種類	2	大気の層構造、大気圧
雲の形成	2	乾燥断熱減率、湿潤断熱減率
大気の大循環	2	地球全体の熱収支、水平対流、地衡風、ハドレー循環
海洋の層構造	2	湖や海洋の層構造、化学成層
海水の運動	2	風成海流、海洋の表層と深層をめぐる循環
地球環境の科学	2	エルニーニョとラニーニャ、地球温暖化、温暖化対策の技術
水質汚濁と水質基準	2	栄養塩と富栄養化、BOD、COD、TOC、廃水処理の技術
大気汚染と対策	2	NOX、SOX、VOC、発生源対策の技術
中間試験	2	

【授業時間外の学習】

【事前学習】教科書をあらかじめ読んでおく。

【事後学習】教科書の問題や問題集を解いておく。課題を期日までに提出する。

【履修上の注意点】

【成績評価の方法】

1. 試験(70%)、演習課題・レポート(30%)などを総合して評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 環境科学

【教科書等】 『新編 地学基礎』 小川勇二郎 他 (数研出版)

【参考書】

【授業科目名】 環境科学概論Ⅱ Introduction to Environmental Science II

【学年・学科】 2年 総合工学システム学科

【授業期間】 半期

【単位数】 1単位 必履修

【達成目標】 C-2

【授業形態】 講義

【分野】 工学基礎

【担当教員】 石丸 裕士

【授業概要】

現代の社会生活の上で必須の教養である生物学について学ぶ。生物の共通性と多様性を軸に据えながら、細胞・個体・群集という各レベルにおいて基礎的な内容を概観し、理解する。

【授業の進め方】

教科書、板書、配布プリントなどを用いて授業を進める。

【科目の達成目標】

1. 細胞、DNA、タンパク質という生物の共通性について理解する。
2. わたしたちの身体を維持している恒常性メカニズムについて理解する。
3. 様々な姿形をもつ生物の由来、生物どうしの相互作用、多様な地球環境について学ぶ。
4. 生物学の知識を備えたうえで社会問題をとらえ、自分の意見を述べられるようになる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
イントロダクション	1	生物とは何か、授業の進め方
生物の共通性	1	細胞の種類と構造
生命活動とエネルギー	2	好気呼吸、ATP合成、酵素の作用、光合成
生物と遺伝子	2	遺伝学の歴史、DNAの構造
遺伝子の複製と発現	4	セントラル・ドグマ、DNA複製、体細胞分裂
生物の進化と系統	5	自然選択、系統分類、生物と人類の進化史
中間試験	2	試験の実施と解説
社会のなかの生物学	2	生徒からのリクエストにより決定
体内環境の維持	2	恒常性、肝臓と腎臓
体を保ち守るしくみ	3	自律神経系、ホルモン、免疫
植生の多様性	2	エコロジーとは何か、食物網、共生と寄生
バイオームと保全	2	世界と日本の気候とバイオーム、生物保全
霊長類の社会と生態	2	霊長類の多様性とヒトの位置、マンドリルの魅力

【授業時間外の学習】

授業前に前回の授業を思い出し、授業後にプリントを見返すことを毎回少しでも行うことが望ましい。

【履修上の注意点】

授業中に説明

【成績評価の方法】

1. 中間試験および期末試験(70%)とレポートなどの提出物(30%)を総合して評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】 環境科学概論Ⅰ、環境科学

【教科書等】 『改訂 新編生物基礎』 浅島誠ほか (東京書籍)

【参考書】

【授業科目名】基礎工学演習Ⅰ・Ⅱ(M) Fundamental Engineering Exercise(M)

【学年・学科】2年 総合工学システム学科

【授業期間】後期

【単位数】1単位 必履修(選択)

【達成目標】C-1

【授業形態】演習

【分野】工学基礎

【担当教員】勇 地有理

【授業概要】

総合工学システム学科機械システムコースの基礎的事項を学ぶ。主に機械製図について学び、演習、課題を行うことによってものづくりの基礎となる力を養う。

【授業の進め方】

機械製図の作業時間を多く配分し、演習、課題により理解を深める。

【科目の達成目標】

1. 寸法記入法や公差・表面性状の表し方を理解できる。
2. ねじの種類と用途および表し方を理解できる。
3. 軸と軸継手の表し方、軸受の種類と用途および表し方を理解できる。
4. 歯車の種類と用途および表し方を理解できる。
5. 溶接の表し方を理解できる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
授業の進め方および成績評価	1	授業概要と進め方、授業の目標、評価方法の説明
図形の表し方	1	図面の配置、特別な図示方法
寸法記入法	1	寸法記入を含む製図
公差・表面性状	2	公差・表面性状を含む製図
ねじの基本	1	ねじの名称や種類の説明
ねじ製図	5	ねじ製図
軸と軸継手	4	軸と軸継手の説明
中間試験	1	中間試験
軸受の種類と図示	4	すべり軸受、転がり軸受
歯車の基礎	2	歯車の種類と歯車各部の名称の説明
歯車製図	6	歯車製図
溶接	2	溶接部の記号

【授業時間外の学習】

事前学習は前期の製図基礎をしっかりと復習しておくこと。
事後学習は課題の遅れについては各自完成に向けて自学自習すること。

【履修上の注意点】

【成績評価の方法】

1. 【科目の達成目標】の1～5に対して、試験と課題レポートで評価する。
2. 基準は試験2回(30%)、演習課題の提出状況とその内容(70%)を総合して評価する。
3. 100評点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】製図基礎、総合工学実験実習Ⅰ・ⅠⅠ

【教科書等】機械製図 林 洋次ほか(実教出版)

【参考書】

【授業科目名】基礎工学演習 I・II (H) Fundamental Engineering Exercise (H)

【学年・学科】2年 総合工学システム学科

【授業期間】後期

【単位数】1単位 必履修(選択)

【達成目標】C-1

【授業形態】演習

【分野】工学基礎

【担当教員】金田 忠裕

【授業概要】

制御基礎としてシーケンス制御についてシーケンス図の読み方作り方、基礎回路、応用回路を学ぶ。

また、論理回路を構成する論理素子の動作を理解し、組み合わせ論理回路を設計するための手順と方法を学習する。

【授業の進め方】

主にプリントを配布して授業を進める。

基礎的な事項に重点をおいて講義を行い、課題や演習問題を適宜実施する。

【科目の達成目標】

1. シーケンス図の読み方・作り方を理解し、実際に応用できる。
2. シーケンス制御の基本回路、応用回路を理解する。
3. 簡単な組み合わせ論理回路を設計することができる。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
シーケンス制御の概要	2	シーケンス制御とは
リレーシーケンスの基礎	2	制御用機器と図記号
シーケンス図	2	シーケンス図の描き方、タイムチャート
シーケンス制御基本回路	4	基本回路、自己保持回路、タイマー回路、インターロック
シーケンス制御応用回路	4	組み合わせ回路、その他応用回路
論理回路の概要	1	論理回路とは、論理回路の利用例
論理回路の構成要素	3	AND回路、OR回路、NOT回路、MIL記号、真理値表
ブール代数の基礎	2	基礎演算、諸定理
組み合わせ論理回路の設計	4	真理値表から論理式を作成、カルノー図による論理式の簡単化
論理回路演習	4	演習
中間試験	2	

【授業時間外の学習】

オームの法則や抵抗による分圧回路など、「電気電子基礎」で学習した直流回路の基礎について十分に復習しておくこと。

【履修上の注意点】

プリントを保管するためのファイルを各自用意しておくこと。

【成績評価の方法】

1. 科目の達成目標について、試験(70%)および演習(30%)により総合評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】電気電子基礎、電気機械工作実習(3H)、シーケンス制御(3M)、論理回路(3E)

【教科書等】なし

【参考書】『よくわかるデジタルIC回路の基礎』松田勲ほか(技術評論社)

【授業科目名】基礎工学演習Ⅰ・Ⅱ(E) Fundamental Engineering Exercise(E)

【学年・学科】2年 総合工学システム学科

【授業期間】後期

【単位数】1単位 必履修(選択)

【達成目標】C-1

【授業形態】演習

【分野】工学基礎

【担当教員】重井 宣行, 平田 昌也

【授業概要】

工学技術者として必要となる電気の基本的な現象や法則について、演習を通して学ぶ。実際に問題を解くことによって理解を定着させる。

【授業の進め方】

演習問題および解説資料を配布する。中間試験までは演習主体で授業を進めるが、後半は講義と演習による方法で授業を行う。

【科目の達成目標】

1. 直流回路の諸法則を使った回路計算ができる。
2. コイル、コンデンサの特性と交流の基礎を理解する。
3. 情報数学、デジタル回路の基礎を理解する。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	1	授業の進め方と目標、評価方法の説明等
直流回路の演習	3	オームの法則、抵抗の接続
	4	キルヒホッフの法則
	4	電力、電力量、エネルギー
まとめ1	2	直流回路のまとめ
中間試験	2	
情報数学、デジタル回路	2	基数変換、2進数の演算
	2	基本論理素子の動作、論理回路の基礎
静電気、電流と磁気	2	電界、静電容量、コンデンサの性質
	2	電流と磁界、電磁力、電磁誘導、コイルの性質
交流の基礎	2	正弦波交流、角周波数、位相、瞬時値、実効値
	2	自己インダクタンス回路、複素数
まとめ2	2	情報数学、静電気、交流の基礎等のまとめ

【授業時間外の学習】

1. 授業中に出题された演習問題を自分の考えで解いて提出する。分からないところは参考書などで調べる。
2. 授業後、返却された演習課題の誤りについて、再度自ら検討して、正しく理解する。

【履修上の注意点】

関数電卓、レポート用紙(A4サイズ)、配布物を綴じておくファイルを用意すること(計3点)。

【成績評価の方法】

1. 科目の達成目標1~3について、その達成度を試験(70%)および課題・演習等(30%)を総合的に判断して評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】電気電子基礎、物理2、情報、論理回路、電磁気学I、電気回路I、電子情報実験I

【教科書等】『電気基礎1』堀田栄喜ほか監修(実教出版)、プリント

【参考書】『はじめての電気回路』大熊康弘著(技術評論社)

【授業科目名】基礎工学演習Ⅰ・Ⅱ(A) Fundamental Engineering Exercise(A)

【学年・学科】2年 総合工学システム学科

【授業期間】後期

【単位数】1単位 必履修(選択)

【達成目標】C-1

【授業形態】演習

【分野】工学基礎

【担当教員】東田 卓

【授業概要】

これまで「化学1, 2」で学んできた内容をより実生活に近い距離で感じて演習を行う。
後半では総合工学実験実習Ⅰ、Ⅱで学んできた内容を演習を通してより学習内容を定着する。

【授業の進め方】

教科書を1日1章づつ進む。授業に関連した項目について教科書から離れても講義し、また学生からの質問に回答する。教員からも質問するので、その章に関連したテーマについて日頃から関心を持っておくこと。

【科目の達成目標】

1. 各章について「化学」の基礎知識を元に身の回りのモノを理解する。
2. これまでの総合工学実験実習で実体験したことを確実に理解し、内容を定着する。
3. アクティブラーニングを通して主体的な学習方法を学び、Aコースを調べ、自分の進むべきコースを選ぶ。

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
科学の目でものをみると	2	化学ってどんな学問?
生活に華を添えるもの	2	「衣類」の化学
身近ないれものはなぜ壊れない	2	「住生活」にまつわる化学
生きていくうえで不可欠なもの1	2	「食」と化学
生きていくうえで不可欠なもの2	2	「食」と化学
すこやかな生活を支えるもの	2	「健康」にまつわる化学
化学が支える情報社会	2	「情報」と化学
中間試験	2	
快適に生活ができるワケ	2	「エネルギー」の化学
よりよい社会を作るために	2	「環境」と化学
化学とは何だろう	1	社会における化学者の役割
アクティブラーニング	1	Aコースに関する主体的学習とALの手法を取り入れた班別討議
工学演習	8	総合工学実験実習Ⅰ、Ⅱのテーマに関する演習、総合演習

【授業時間外の学習】

自律的な学習として、その日学習する教科書の章を授業前に一読し関連する身の回りのモノについて学習する。その日のうちに復習し、よく理解したうえで、身の回りのモノとして注意を払ってモノを見る習慣をつける。課されたレポートは十分時間を掛け仕上げ、計画的に行われる小テストは普段の学習を行い準備をしておく。

【履修上の注意点】

コース選択の重要な位置を示す講義であることから環境物質化学コースを選択したい学生は必ず履修すること。また、将来進む可能性のあるコースであることから積極的に授業に参加し、関連する質問などを考えておくこと。ALはレポート遂行上重要であるので主体的に取り組むこと。

【成績評価の方法】

1. 試験(70%)、小テスト・レポート(30%)を総合して評価する。
2. 100点法により評価し、60点以上を合格とする。

【関連科目】化学1,2、総合工学システム概論、総合工学実験実習Ⅰ、Ⅱ、有機化学Ⅰ

【教科書等】『はじめての化学 一生活を支える基礎知識一』 井上祥平著(化学同人)

【参考書】『基礎有機化学』 大須賀篤弘、東田卓共著(サイエンス社)

【授業科目名】基礎工学演習Ⅰ・Ⅱ(C) Fundamental Engineering Exercise(C)

【学年・学科】2年 総合工学システム学科

【授業期間】後期

【単位数】1単位 必履修(選択)

【達成目標】C-1

【授業形態】演習

【分野】工学基礎

【担当教員】山野 高志, 岩本 いづみ

【授業概要】

都市は様々な要素により成り立ち、多岐に渡る技術により支えられている。本科目では「土木」と「建築」の分野が社会に果たす役割とその手法について学習する。良好な都市環境・都市空間を創りあげるために必要な技術の体系や、事業の計画・設計・施工・維持管理に関する様々な技術、さらに建設技術者の使命について理解する。

【授業の進め方】

土木と建築に関する複数のテーマをオムニバス形式で学ぶ。それぞれのテーマに関する演習課題を毎回実施し、その都度理解する方法で学習する。

【科目の達成目標】

1. 都市の概念と役割について理解できる
2. 都市と土木技術・建築技術の関係が理解できる
3. 都市を支える諸要素とそれに必要な技術を理解できる
4. 土木・建築技術者の役割と使命について理解できる

【授業の内容】

項目	時間	授業内容
ガイダンス	2	授業の進め方、都市に関する概論
土木の学問体系	2	都市を支える土木技術と学問体系
土木の複合性	2	構造物を作るのに必要な複数の技術
土質力学概論	2	安定した地盤を作るには
都市計画概論	2	安全で安心なまちをつくるには
水理学概論	2	川や管路の流れを制御するには
中間総括	2	中間までの内容のまとめ
土木と建築	2	土木分野と建築分野の違いとその関係
建築の学問体系	2	建築に関する技術と学問体系
構造力学概論	2	強い構造物を作るには
材料学概論	2	強い材料を作るには
建築史概論	2	西洋建築史と日本建築史、近代建築史
建築環境概論	2	建築における環境と設備
総括	4	最終的な内容とりまとめ

【授業時間外の学習】

適宜講義内で指示する。

【履修上の注意点】

中間ならびに期末試験は実施せず、授業内での演習課題により成績評価を行うため、欠席や遅刻をしないよう注意すること。

【成績評価の方法】

1. 毎回の演習課題を総合して、授業の目標に対する達成度評価を行う。
2. 100点法により評価し、評点60点以上を合格とする。

【関連科目】都市環境コース3年次以降の全専門科目、専攻科土木工学コース全専門科目

【教科書等】毎回プリントを配布する

【参考書】必要に応じて授業中に紹介する